

氏名	潘 怡良
学位	博士
専門分野の名称	文学
学位授与番号	博甲第 4662 号
学位授与の日付	平成 24 年 9 月 27 日
学位授与の要件	社会文化科学研究科社会文化学専攻 (学位規則(文部省令)第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	菅原道真における白詩の受容
学位論文審査委員	主査・教授 岡本不二明 教授 田仲 洋己 准教授 橘 英範 岡山大学名誉教授 下定 雅弘

学位論文内容の要旨

学位論文—潘怡良「菅原道真における白詩の受容」—の要旨は以下の通りである。

菅原道真は、平安朝時代の漢詩人の中でも最高に位置する詩人である。学識に富み当時屈指の文化人であった彼の詩が、中国の唐の白居易から大きな影響を受けていたことは先行研究である程度は指摘されてきたが、両者の影響関係を具体的な詩に即して、本格的に考察したものはほとんどないと言ってもいいほどであった。

本論文ではこうした経緯を踏まえ、菅原道真の詩の表現に、どのような白居易の詩(以下白詩と略す)の影響がみられるかを、個別の作品を精密に比較検討することであきらかにし、またそこからさらに道真の生き方に白居易の思想がどのようにかかわったのかを解明することを目指した。

第一部では、白詩には先行研究(沢崎久和氏ほか)が述べるように、現在の不遇や不満を、過去や他者の例と比較することで、最終的に自己を納得させるという、一定のパターンの表現がみられるが、道真にもその影響を受けた類似の表現の詩が、若年から最晩年までさまざまな主題の詩(讃岐左遷、子供や家学など)の中に見られることを指摘した。こうした表現からみて、道真は流謫や不遇の時代に、白居易の発想を借りて自己を慰め、精神的な危機を克服しようとしたことが分かった。

第二部では、見立て表現を中心として白詩の影響を探った。具体的には「雪」「月」「梅」「舞」などの道真詩の中でもきわめて重要な詩語をとりあげ、それらの詩語がどのように喩詞や被喩詞などに使われているかを詳細に分析し、白詩の影響がかなり大きいことを立証した。さらにそのうえ「月」や「梅」などにみられる道真らしい特徴的な喩表現は、白詩の模倣や影響から抜け出て、独自の喩表現を獲得するに至ったことを指摘した。「月」を自己や天皇に喩する例などは、他の詩人にみられない道真の独創であり、「梅」をさ

まざまに擬人化（自己や子供たち）し立体的に詠う例も、きわめてすぐれた比喻性を獲得している。

結論としては、菅原道真の詩が白詩の表現技巧（比較表現や見立て比喻表現など）の影響をさまざまに受けながら、最終的には独自の詩の世界を構築したこと、それとともに道真の人生観に白氏の唱えた思想（「独善」「兼濟」など）が大きな影響をあたえたことを、表現技巧の側面から具体的に立証することができたと思う。

学位論文審査結果の要旨

学位論文「潘怡良「菅原道真における白詩の受容」」に対する審査結果の要旨は以下の通りである。

本論文は、平安時代の代表的な文化人、菅原道真の漢詩が、唐の白居易の詩から多くの影響を受けたことを、詩句の表現技巧の具体的な分析を通じて考察し、さらに道真の生き方に白居易の思想がどのような影を落としていたかを解明しようとしたものである。

第一部では、白詩にみえる「讓歩」→「比較」→「肯定」という表現形式（沢崎久和氏の提唱）が、道真詩に二十例あり、京都時代～讃岐守時代～最晩年の太宰府時代まで、ほぼ生涯にわたり出現しているという重要な指摘をおこない、詳細に白詩と比較検討しているその過程は説得力がある。道真が不遇な時期に、他者との比較により慰めを見だし、自己を肯定しようとしていた背景に、白居易の「知足」「兼濟」「独善」の人生観を想定しているのも妥当な推測といえる。また道真の子供に対する愛情豊かな詩の分析も興味深いものがある。

第二部では、道真詩の「雪」「月」「梅」「舞」などの語がどのような見立て表現や比喻性を持っているかを、白詩の影響関係の中で追求したものである。「雪」に関しては常套的な詩語であり、本論文が述べるほどには白詩の影響が強いとは必ずしも言えないが、「月」「梅」などの比喻表現に関しては、道真詩が白詩の影響を受容しつつ、それを超越して独自の世界を築いたという論述は、十分に納得できる内容になっている。とりわけ「月」に天皇や自己を投影した表現は、中国にはないものであり（中国では天子は太陽に比喻される）、道真詩のこの独創性を指摘したのは、本論文の功績である。

本論文は個別に発表したいくつかの論文をまとめたものであるが、論述や引用文などに重複が目につき、渾然一体と融合しているとはやや言い難い点が残ったのは惜まれる。

しかし、こうした欠点を含みつつも、全体として先行研究を丁寧に踏まえて、見立てや比喻表現という観点からのユニークな分析、白詩との影響関係の詳細な考察、そこから最終的に菅原道真に対する白居易の思想的な影響を指摘するという論述過程と全体構成は、十分な説得力をもち得ており、学位論文にふさわしい内容を備えていると判断する。